

Vol. 57
2024 WINTER

ISSUE

[繋ぐ]

広げる

Special Issue:

奥行きある美を表現した 微細な質感の「壁紙」

先どる

空間に遊び心をプラスする
紙のウォールデコレーション

OJO+ Column

小学生のサッカー大会で
「OJO+」製のゴールネットが採用

KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU (繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

Cover Photo
表紙で使用している壁紙は、スリーエイ(株)が企画・製造し、(株)サンゲツが販売しています。
「SHABBY MEMORY(シャビーメモリー)」
品番:FE76077(カタログ「2023-2026 FINE」収録)

奥行きある美を表現した 微細な質感の「壁紙」

個人や家族で暮らす住宅をはじめ、レストランやホテル、商業施設といったパブリックスペースの壁や天井に施された紙をベースにした美しい装飾。壁紙は、内装の大きな面積を占める重要な演出要素であり、私たちの生活空間をデザインする最も身近なインテリアといえるものです。普段、あまり意識することがない壁紙ですが、色や柄はもちろんのこと、ベースとなる素材や質感の異なる多種多様な製品があり、どのような壁紙を選ぶかによって暮らしの質を向上させることにつながります。その奥深い魅力を探るために、千葉県野田市にある壁紙メーカーを訪ねました。

広げる P01

奥行きある美を表現した
微細な質感の「壁紙」

OJO+ Column P07

小学生のサッカー大会で
「OJO+」製のゴールネットが採用

先どる P08

空間に遊び心をプラスする
紙のウォールデコレーション

伝える P11

文壇の奇才が父に送った
小胆な一面をのぞかせた手紙

拓く P13

国内最大規模の展示会に
国際紙パルプ商事が出展

深める P14

KPPグループの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る 付録

(株)ボグクラフト特製
「KAKUKAKU 達磨」



- ① ビニル樹脂コーティングが施され、製品ごとに仕分けされた2,000メートル巻の原反。
- ② ビニル樹脂をコーティングする様子。
- ③ 壁紙の意匠をグラビア印刷によってプリント。
- ④ レーザー彫刻が施されたエンボスロール。
- ⑤ 原反を発泡炉で加熱し膨らませる様子。



壁紙は、日本経済の発展とともに進化を遂げた、人々の生活を豊かにするためのインテリア。

室内の壁面や天井に施される壁紙は、生活を豊かにするために欠かせない内装材です。日本の住空間に馴染みやすいシンプルで無地調から、本物の自然素材を思わせる木目や石目調、質感や風合いを見事に再現したファブリック風など、そのデザインやカラー、素材の組み合わせによって、何千種類もの製品が生み出されています。千葉県野田市に本社を置くスリーエイ株式会社は、すでに確立された技法や素材はもちろん、アートの手法を加えたり、時代に合う表現方法を柔軟に取り入れながら独自の製品づくりを進める壁紙の専門メーカーです。

「実は日本のように壁紙を使う国は、世界的に見るとそれほど多くありません」。そう話すのは、代表取締役社長を務める丸山知昭さん。「洋画などで休日のお父さんが壁にペンキを塗っているシーンがあるように、アメリカやアフリカでは壁に直接ペンキ塗料を塗るのが一般的です。それにはさまざまな要因がありますが、ひとつは気候風土の違いによるもの。日本のように多湿の

国では、コンクリートにペンキを塗っただけでは結露などでカビが発生する恐れがありますが、気温が高く乾燥している国ではその心配がありません。またペンキ塗装の方が安価で比較的容易に施工できることや、自分の手で自宅をメンテナンスするDIY文化が浸透していることも、海外でペンキ塗装が選ばれる理由だと思っています」。

(二社)壁装研究会が2022年に発表した資料によると、日本の壁紙出荷規模(面積)は年間6億7千万平米で、1位の中国(18億平米)、2位のロシア(9億5千万平米)に次いで世界3位。日本は世界の壁紙市場の約6分の1を占める壁紙大国であることがわかります。そのほか、古くから室内を装飾する文化のあるヨーロッパでも壁紙は広く使われていますが、日本では機能性を重視するのに対し、ヨーロッパではデザイン性が重視される傾向にあります。壁紙をライフファッションとして捉えていることも、壁紙文化の発展に寄与していると思われます。



1982年にスリーエイ化学株式会社として創業し、ビニル壁紙の製造を開始。2000年に二代目として丸山社長(写真右)が就任。2009年には日本の壁紙メーカーとしてはじめてハイムテキスタイル展(ドイツフランクフルト)に出展を果たす。2022年にスリーエイ株式会社へ社名変更。

CREATE WOW ALL

スリーエイ株式会社

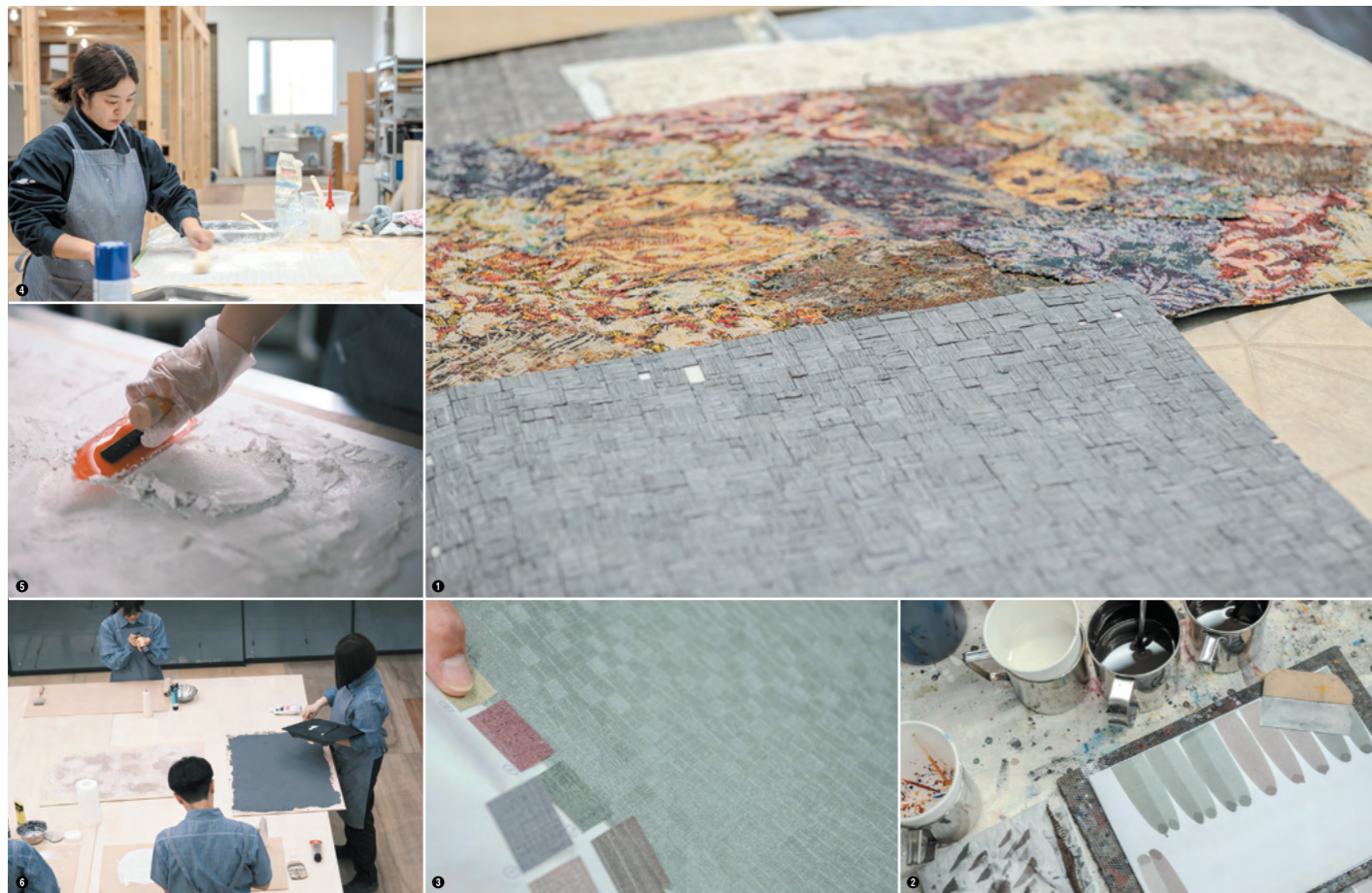
【関宿工場】
千葉県野田市木間ヶ瀬2501
TEL.04-7198-4130

【木間ヶ瀬工場】
千葉県野田市木間ヶ瀬591-1
TEL.04-7198-4131

<http://www.aaa-2501.co.jp/>

つかの種類の分類することができません。和紙や普通紙などを原料とした「紙系」から、レーヨン、絹、麻などでつくられる「織物系」、そのほかにも「プラスチック系」、「無機質系」などがありますが、日本で実際に使用されている約99%が、塩化ビニル樹脂製の壁紙だそう。それまで日本では布製の壁紙が使われていましたが、戦後になつて石膏ボードなどを使用するようになり、構造体を保護する観点から耐久性の高いビニル製にシフトしていきまして」と丸山社長。高度成長期になると住宅需要が拡大し、団地型のマンションが建設されるようになると画一的な部屋が大量に供給され、低コストで施工しやすいビニル製壁紙が爆発的に普及したそうです。「ビニル製壁紙は表現の自由度が高く、表面加工がしやすいこと。また、防火性・耐火性に優れ、防汚や消臭、防カビや抗菌など、さまざまな機能性を持たせることができると丸山社長は解説します。

スリーエイ株式会社は、1982年の創業以来、ビニル壁紙を主力とした幅広い壁紙の製造を続けてきました。半世紀に及ぶその歴史は、壁紙市場の発展期とともにあります。



①～⑥天井が高く開放的な「LABO 2」で行われる創作活動の様子。多目的に使える大空間は、試作品づくりやディスカッション、プレゼンテーションの場として使用されている。



①⑤「LABO1」では、お客様にプレゼンテーションをするための「ペビー」と呼ばれる試作づくりが行われている。②③大量にストックされている壁紙のプリント版。④リアルな石を砕いてつくった壁紙デザイン。⑥企画部の様子。⑦発想のヒントやアイデアを実現するためのデザイン関連の蔵書が並ぶロフトスペース。

ビニル壁紙の製造工程



- 1. 配合**
自社で仕入れた塩化ビニル樹脂、顔料などの原料を配合。攪拌機にかけて練り上げ、ペーストゾルをつくる。
- 2. コーティング**
原紙にペーストゾルを塗布したのち、乾燥炉、冷却ロールにかけて壁紙の基礎となるベースをつくる。
- 3. プリント**
凹版を使ったグラビア印刷によってデザインをプリント。環境・安全性の配慮から水性インキを使用。
- 4. 発泡・エンボス**
印刷された原反を発泡炉で加熱し膨らませ、さらに加熱したうえでエンボスロールによる型押しをする。
- 5. 検査・梱包**
各検査工程においてCCDセンサや検査員による厳しい検査を実施。色相差や左右差などを確認する。

版を必要としないため少量生産が可能で、色数の制限なく多彩な表現ができる「デジタルプリント」や、貼りやすいうえにきれいに剥がせる「フリース（不織布）壁紙」など、常に最新の技術を組み合わせた新しい表現を模索してきたスリーエイ株式会社。そんな同社が次に見据えるのは、持続可能な社会実現に向けた挑戦です。「これから数年かけて環境負荷軽減をテーマにした活動を進めていきたいと思っています。ひとつは、環境への影響が少ない原料を使った壁紙の開発。もうひとつは、使い終えた壁紙を回収・リサイクルして再資源化・再利用するしくみづくりに着手したいと思っています。これには分別や回収の課題があり制度化までに時間がかかりますが、確実に進めていく必要があります。そのスタートとして自社で出したロス分の壁紙については紙と塩化ビニルを分離し、その紙を再資源化して紙製の猫砂として利用する取り組みを行っています」と丸山社長は温めてきた思いを語ります。

壁紙の魅力を広げるための可能性を掘り続けて、見る人のワクワクする気持の種を撒く丸山社長の挑戦は、まだはじまったばかりです。

創造性豊かな壁紙を世界中に広めることで、
ワクワクする気持ちと驚きのある感動を届けたい。

スリーエイ株式会社には3つの製造工場があり、粗原料の配合からプリント、エンボス加工といった製造工程のほか、最終製品として出荷するまでのすべての工程を自社内で行っています。取材チームは丸山社長の説明を受けながら、ビニル壁紙の製造工程を見学させていただきました。

まずは全長1万メートル巻きのロールが積まれた木間ヶ瀬工場内へ。原反となる紙は、壁紙用につくられた65〜70グラム／平米の薄い普通紙で、糊を含んでも貼りやすく、きれいに剥がせる紙を選んで仕入れているそうです。その使用量は、年間3千万平方メートルにも及ぶそうです。その後、塩化ビニル樹脂などを混練したペーストをコーティングしたのち乾燥をかけ、グラビア印刷を施すことで柄やパターンを印刷。次に、印刷した原反に含まれる発泡剤を200℃以上の高熱で膨らませ、エンボスロールを型押しすることで表面に凹凸のある立体的な模様を施していきます。「当社に求められていることのひとつが、美しいテクスチャーを生み出すエン

ボス加工です。当社ではレーザー彫刻を使ったエンボスロールを用いることで、より複雑で微細なデザイン表現を可能にしています。光を受けて浮かび上がる美しい陰影や奥行きのある表情を生み出すことに、どこまでもこだわり続けたいと思っています」（丸山社長）。

スリーエイ株式会社は、昨年、壁紙の新たな可能性の探求と独自性の高いデザイン開発を目的としたクリエイティブブルームを増設。2つのLABOでは、調色やテクスチャーの試作やサンプルの作成、自社の企画スタッフと外部デザイナーの協同による新しい手法の開発など、イノベティブな活動を推進する環境を整備したそうです。「時代に合った壁紙をご提供していくためには、これまでの概念にとらわれず、新しい表現や潜在的な付加価値を追求し続けなければなりません。当社では、創造性豊かな壁紙を通して世界中の人々に驚きのある感動を届けることをミッションとして、「CREATE WOW ALL（WALL）」というスローガンを掲げています」と丸山社長は話します。

空間に遊び心をプラスする

紙のウォールデコレーション



小学生を対象とした鎌倉市のサッカー大会に協賛、 「OJO+」50%配合のゴールネットが採用されました



ゴールネットの素材として、製品になる前のOJO+の燃り糸を展示。



今回導入された「OJO+」製ゴールネットは、キッズからシニアまで多くの方々に使用される予定。



昨年11月11日(土)、神奈川県鎌倉市にある「みんなの鳩サプレースタジアム」で開催されたサッカー大会「第5回鳩スタカップ」に、当社グループの国際紙パルプ商事と王子ファイバーが協賛しました。この大会は、子どもたちがサッカーを純粋に楽しみ、自分自身で物事を考え解決に向けて取り組む姿勢(自主性・積極性)を身に付けることを趣旨として開催されるものです。第5回大会では、鎌倉市内や近隣地域にある6チームに、鎌倉インテルサッカースクールの2チームを加えた計8チームの小学生3・4年生が参加し、白熱した熱戦が繰り広げられました。

全試合終了後、各チームから1名ずつ選出されるグッドゲームメーカー賞の表彰が行われ、王子ファイバーの平井社長から記念のメダルと賞品が贈呈されました。

また、この大会ではかみのいと「OJO+」製のゴールネットが採用されました。小学生たちは、紙とは思えない丈夫さや肌触りに興味津々の様子です。また、ご家族やスタッフの皆さんも、その軽さや速乾性に優れた機能性、環境にやさしい植物由来の素材に多くの方が関心を寄せていました。

このゴールネットは今後、神奈川県の人1部リーグ所属のサッカークラブチーム「鎌倉インテル」が練習や試合で使用する予定です。その優れた機能性から、ますます幅広い用途に活用される「OJO+」に、注目ください。

「OJO+」に関する 質問・お問合せ

王子ファイバー株式会社

所在地：東京都中央区銀座5-12-8
王子ホールディングス1号館7F
TEL : 03-5550-3003
FAX : 03-5550-0621

QRコードをチェック ▶▶▶
<https://www.ojifiber.co.jp>



「鎌倉インターナショナルFC」 <https://kamakura-inter.com/>

神奈川県社会人1部リーグ所属のクラブチーム。通称、鎌倉インテル。「CLUB WITHOUT BORDERS」をビジョンとして、国境をはじめ、性別、年齢などのあらゆる「BORDER」(境界線)をもたないサッカークラブをめざしています。

「みんなの鳩サプレースタジアム」 <https://hatostadium.com/>

個人・企業など民間の支援によって2021年に完成した人工芝スタジアム。老若男女問わず人々が集い、多様な価値観が混ざり合うことで新しい価値を生み出せる場として広く活用されている鎌倉インテルのホームグラウンド。
住所:神奈川県鎌倉市梶原634-1





組み立てる工程も楽しめる 壁に飾る立体ペーパークラフト

カクカクとしたファンシーさと、シンプルでモダンな印象を併せ持つ壁掛け用立体オブジェ。このユニークなアニマルヘッドは、紙とダンボールを組み立ててつくる、人気のペーパークラフトです。完成形を飾って楽しむだけでなく、手を動かして少しずつカタチになっていき、作業時間も楽しめるこの紙製インテリアについて、製造・販売を手掛ける(株)ボグクラフトの田沼恵司社長にお話をうかがいました。

——(株)ボグクラフトを創業するまでの経緯を教えてください。

昔から、頭の中で考えたものをカタチにするのが好きだったこともあって、地元・群馬県の実業家に就職。5年間勤務していましたが、美容室の閉店を機に、もうひとつの夢だった玩具に携わる仕事に就くために上京をすることに。専門学校でデザインを学んだのち、著作権ビジネスを手掛ける企業を経て、大手玩具メーカーに再就職することができました。そこではテーマパークで販売する玩具やカプセルトイの企画・開発を担当していましたが、商品の入れ替えが激しく、一生懸命考えてつくったものが短期間で消費されてしまうことに疑問を持つようになり、「ボグクラフト」を立ち上げることにしました。

——ビジネスが軌道に乗る転機になったことは何ですか？

壁掛け用の立体オブジェを商品化した当初、宣伝のために玩具やギフトをテーマにした大規模な展示会に出展していましたが、なかなかビジネスにつながりませんでした。そこで、「組み立てて楽しむ玩具」から、「飾って楽しむインテリア」寄りの立ち位置に変えてみることに。出展する展示会を変更したところ、ようやく具体的なビジネスの引き合いをいただけるようになりました。その後もインバウンド需要の高まりを受けて、日本らしさを意識した商品を拡充したことで、多くの方々に受け入れてもらえるようになりました。



——「ボグクラフト」の商品ラインナップを教えてください。

動物をモチーフにした壁掛け用アニマルヘッドと、棚に乗せて飾る10～20センチ程度の小さなオブジェがそろった「KAKUKAKU (カクカク)」のほか、美しい昆虫を立体的な標本にした「SQAR (スクウェア)」などのブランドやシリーズがあります。また新商品として、花瓶に刺した植物のインテリア「SOEL (ソエル)」も発売しました。

——おおまかな製造工程を教えてください。

3次元ソフトで設計したデータを基に、レーザー加工機で裁断や折りなどの加工を施し、精巧なペーパークラフトに仕上げていきます。データどおりに仕上がっても紙の厚さなどの誤差が生じるため何度も試作を繰り返す必要があり、組み立てが複雑な商品だとなかなか仕様が合わず、50個の試作品をつくることも。仕様が決まるまでに、平均して1カ月～1カ月半ほどの時間がかかります。

——商品に使用する紙は、どのような紙ですか？

できるだけ印刷を行わず、色の異なる紙を重ねることで奥行きを表現したいと思っているので、色数が豊富にそろった「ケンラン」や「NTラシャ」を使用しています。また、組み立てに両面テープも使用するので、失敗してもきれいに剥がせる塗工紙を選ぶようにしています。

——商品化する際に、こだわっていることは何ですか？

うちの商品は、必要最低限の色数と面体でつくることをルールにしていて、モチーフがわかるギリギリのラインまで余計なものをそぎ落とすことを意識しています。シンプルで洗練されたデザインを追求することで、時代や流行の変化に左右されず、安定して長く販売できる商品づくりを続けたいと思っています。

——最後に読者の方々へのメッセージをお願いします。

単に「飾る」だけでなく、「つくる」時間も楽しめる商品です。「つくる」時間の思い出が詰まったペーパーフィギュアとして、ぜひお部屋のインテリアに取り入れてみてください。



あらかじめ切り抜きや折り目加工は施工済み。のりしろの幅に合わせた両面テープが付属しているので、カッターまたはハサミがあれば組み立てることができる。

暮らしに潤いをもたらす 「ペーパーグリーン」

花や葉のパーツをシートから切り離してスティックに通すと植物のインテリアになる「SOEL (ソエル)」は、全5種類のラインナップ。茎の部分がリードスティックになっているので、お気に入りのフレグランスオイルを瓶に入ると心地よい香りが空間に広がります。目と心を潤してくれるメンテナンスフリーのインテリアとしておすすめです。



「SQAR (スクウェア)」シリーズ。

株式会社ボグクラフト

住所 : 東京都台東区下谷2-22-1 ENDOU1F
TEL : 03-6873-6183
公式サイト : <https://www.bogcraft.com/>
ECサイト : <https://bogcraft.official.ec/>



都内展示会で新商品を発表予定

2/6(火)～8(木)に開催される展示会「EXTRA PREVIEW #28」(会場:ニューピアホール/東京都港区海岸1-11-1 ニューピア竹芝ノースタワー1F)にて、日本の春をイメージした新作を出品予定。ボグクラフトでは、オリジナル商品だけでなく、OEM商品の発注にも対応しているため、ご興味のある方はぜひ。



今号の「作る」の付録は、(株)ボグクラフトさんが設計・監修した「達磨」のペーパークラフトです！

「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというが、

手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。

手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第三十五回 直木 三十五

いつの間にか連載が十年近くになった。ここまで継続できたのは読者と編集部のおかげだとつくづく思う。これまでの「手紙は語る」は、過去にわたしが頂戴した手紙の二部を材料に送信者のプロフィールを紹介するという形をとってきたが、今回と次回はわたし宛の手紙が材料ではない。今回はわが家に残された祖父宛の手紙を材料にわたしの伯父にあたる作家の直木三十五、次回はその友人で「直木賞」の創設者でもある菊池寛の簡単なプロフィールを紹介することにする。

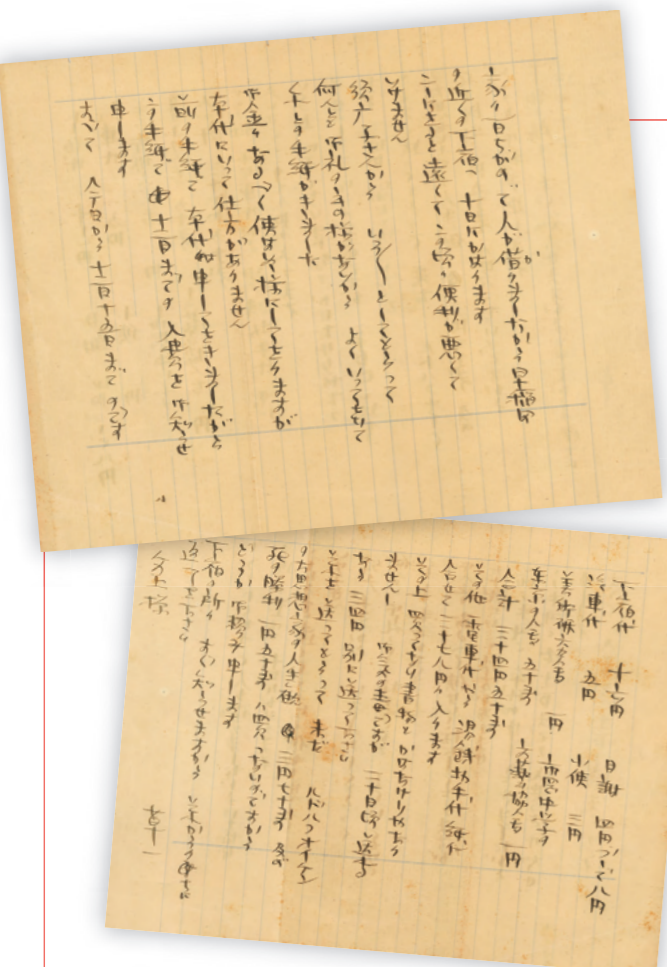
直木三十五は、本名植村宗一。大阪の古着屋の長男で、明治二十四年に生まれ昭和九年四十三歳で死んだ。代表作に島津のお家騒動を描いた『南国太平記』がある。貧乏と挫折続きの人生で、作家として脚光を浴びたのは晩年のわずか十年間だが、多作家で小説、雑文など、数えられるだけで長短七百編を書き残し足早にこの世を去った。

直木の十歳違いの弟が清二で、わたしはその長男にあたる。わたしは父から「おまえは直木の伯父さんにそっくりだ。容貌だけでなく性格までそっくりだ」といわれながら育った。そんな言葉が身体のごくかまに浸みこんでいて、わたしはサラリーマンを退職したあと、「直木三十五伝」という評伝を執筆した。ろくにその著作に触れてもないわたしに伯父の文学を評価する能力も資格もないが、直

木は「俺の書くものなど、フォードとか、芋、鯛の類」といつている。「芋、鯛」は謙虚でいいなと思うが、「フォード」が入っているのはいかげななものか。彼は文壇で初めて自家用車を持ったといわれる文士で、一方でそれを自慢していたのかもしれない。

長谷川伸が直木を称して「昭和奇人伝を編む人があれば、第二にあげねばならない稀有の人物」といつているが、貧乏、寡黙、傲岸、エピソードは限らない。まず真、先に貧乏について。大学を中退して就職もままならず女房の寿満に食わせてもらっていた頃のこと。醤油で炊いただけの飯を四日続けて食べた。親に送金を無心する手紙に貼る三銭の切手代がなくて一週間封筒が机の上に置かれっぱなしだった。執筆について。直木は、著作の内容や質よりも執筆のスピードを誇っている。「私の略歴」というエッセイに、「速筆にて二時間五枚乃至十枚を書き得。最速レコード、十六枚踊子行状記の最終二十回は、この速度」と書いている。文藝春秋の牧野という編集者が原稿の催促にいったときのこと。直木に「まあ、これでも喫って待つてくれ」といわれて差し出されたウエストミンスターを一本喫い終わらないうちに雑文二編が書きあがったという。寡黙もまた直木のトレードマークのひとつだった。

「全集」の月報で谷崎精二が晩年のこんなエピソードを紹介している。直木と谷崎と三上於菟吉の三人が甲府の「文芸講演会」に招かれた。講演が終わって、土地の有志が慰労の晩餐会を開いてくれた。一人が谷崎と直木をとり違えて直木に「谷崎さん」と声をかけた。直木は泰然として無言。「谷崎さん。お兄さん(潤一郎)にはときどき会われますか」直木は応えない。「おい、くつ違いですか」「あなたと潤一郎さんは兄弟でありながらいぶん性格が違うそうですね。直木は「ふん」と鼻をならしたが、結局ひとことも発しなかった。かといって、相手の軽率を憤っている様子もない。谷崎は聞きしにまさる直木の無口に驚嘆したという。貧乏と浪費家が同居していた。直木は、人気作家になった晩年の時期を除き人生の大半で貧乏を通した。したがって、かどうか、遺品の類も少ない。植村家に残るのは、碁盤、落款などほんの数点。それと、大阪で長男の卒業を首を長くして待つ父母に送った偽りの卒業写真。宗一を追って上京した、後に妻となる佛子寿満との同棲生活に窮して彼は早稲田大学を中退するが、卒業した証明用に撮影直前、卒業するクラスメートたちの最後列に飛びこんで撮った記念写真である。大学に入学した後、同棲生活に困窮して父に金を無心したルーズリーフに書かれた手紙が数通残されているが、これはそのうちの一通。



直木 三十五


小説家
1891-1934



1891年2月12日生まれ、大阪府出身。早稲田大学英文科中退後、雑誌編集・映画製作に従事したのち、文筆に専念。鹿兒島藩お由羅騒動を題材にした1931年の『南国太平記』で流行作家となる。以後、時代小説から時局小説、現代小説など幅広い作風の大衆作家として活躍した。1934年、43歳で死去。没後、生前の業績を記念して、大衆文学を対象とする文学賞「直木賞」が設定された。本名、植村宗一。

「家八日らがひで人が借りましたから早稲田の近くの下宿へ 十日にはかります。ここにをると速くてこの頃ハ便利が悪くて、いけません。須磨子さんからいろいろとしてもらって 何んとも御礼の云ひ様がないから よくいつてをいてくれとの手紙がきました。御金ハなるべく使はぬ様にしてをりますが、本代について仕方がありません。前の手紙で 本代は申してをきましたから、この手紙で十二月までの入費を御知らせ申します。すべて今日から十二月十五日までのです。下宿代十六円 月謝四円づつで八円 汽車代五円 小使三円 美術研究会一元 市岡中学の会五十銭 文藝協会二元 合計三十四円五十銭。その他 電車代やら湯銭切手代紙代合せて三十七八円は入ります。その上買つてない書物もかはなけりやなりませんし 御氣の毒ですが、二十日頃送れるなら三四円別に送つて下さい。それを送つてもらつて未だ ルドルフオイクンの大思想家の人生観 三円七十銭及び死の勝利 一元五十銭買へないので、どうか御頼み申します。下宿の所ハ、すぐ知らせますから、それからのちに返事を下さい、父上様 草一」

わが家に残された数通の手紙の内容はほぼ似通っている。どこかにかならず金の無心の文言が含まれている。寿満を須磨子、自身の宗一を草と書いています。寿満の存在は知らせても同棲していることはまだ両親には明らかにしてはいないようだ。「御氣の毒ですが」の二言に、傲岸といわれた伯父の小心とやさしさをわたしは感じとる。早逝した直木三十五の前半生での苦衷を伯父似といわれたわたしはつい思いやるのである。



著者略歴
植村 鞆音 エッセイスト

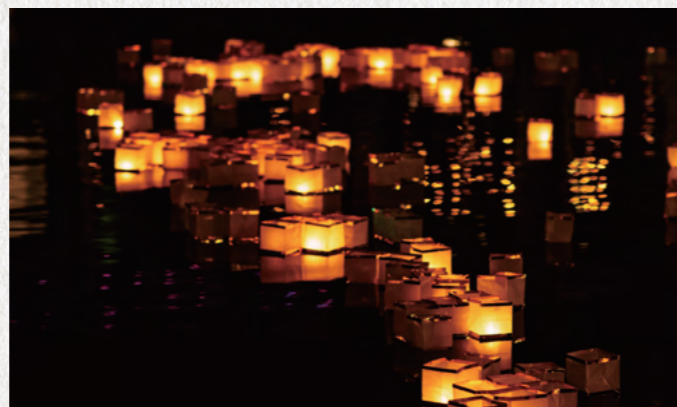
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。



創立100周年記念事業の一環として、本社で楮と三極を栽培

KPPグループでは、2024年に迎える創立100周年記念事業として、東京都中央区産の和紙を使用した和紙ランプシェードの制作に取り組み予定です。現在はその第一歩として、本社地下食堂に隣接している「サンクンガーデン」にて、和紙の原料となる楮と三極の栽培をしています。今夏の猛暑に負けず、すくすく成長する様子を記録しましたので、写真とともにご紹介します。

成長した楮と三極は昨年12月に収穫を行いました。今後は社員が参加する紙漉きワークショップでランプシェードを制作し、完成品の展示を都内にて行う予定です。本誌ではこれからもKPPグループ100周年に向けた取り組みを随時紹介していきますので、ぜひご注目ください。



※写真はイメージです。

■ 楮・三極の成長記録



2023年6月中旬
まっさらな芝生に種まきをし植え付け。



2023年7月
酷暑のため苗が弱ってしまい、水やりを週3回から5回に変更。



2023年8月
時間がかかったものの苗が生育。水やりを調整して観察を継続。



2023年11月
人間の背丈ほどに成長。収穫まであと少し！



2023年10月
暑さの収まりとともに、急激に成長が加速。



2023年9月
記録的な酷暑の影響を受け、8月からほぼ状態に変化なし。

100周年事業に関するお問合せ

KPPグループホールディングス株式会社 コーポレート・コミュニケーション室
TEL:03-3542-4169 MAIL:kpp_cc@kpp-gr.com



持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

KPP Sustainable Times

国際紙パルプ商事が2つの展示会に出展

KPPグループの国際紙パルプ商事が今秋、東京ビッグサイトで開催された2つの展示会に出展しました。ロジスティクス・物流に関するアジア最大級の専門展示会「国際物流総合展」、給食・大量調理現場の課題解決に特化した「FOOD展2023」は、各業界の最新情報・動向が把握できるものとして関心が高く、世界中から多くの来場者が集まる大規模な展示会です。それぞれ、多くの来場者にお立ち寄りいただき盛況を博した国際紙パルプ商事ブースの展示内容についてレポートします。

FOOD展2023 第19回フードシステムソリューション

2023年9月20日(水)～22日(金)

昨今、学校・病院・高齢者施設などでは、食の安全確保や衛生管理の徹底に努めて、環境に配慮した取り組みも欠かせないものとなりつつあります。本展示会では、当社が注力している事業の一つである、脱プラスチックに対応した製品およびソリューションについて紹介しました。

ブースでは、株式会社アミカテラが製造販売を手掛ける「modo-cell® (モドセル)」製の食器や箸を展示(写真:下段)。植物性かつ生分解性のプラスチック代替素材として、高い関心を集めていました。また、株式会社ネクアスが製造販売する海洋生分解性樹脂「NEQAS OCEAN(ネクアスオーシャン)」で成形された透明性の高い環境対応製品なども併せてご紹介しました。

そのほか、バージンパルプ100%を使用した紙パルプの成形品である「パルプモールド容器」や「紙フードパック」など、衛生的かつ紙ごみとして廃棄できる環境にやさしいパッケージなど、お客様のニーズや使用環境に合わせた商材やソリューションをご提案しました。



国際物流総合展2023 第3回INNOVATION EXPO

2023年10月10日(火)～12日(木)

「いま求められる 持続可能な物流のカたち」をテーマに、国際紙パルプ商事が注力する事業の一つ「パッケージソリューション」を中心に、EC事業や3PL事業(サード・パーティー・ロジスティクス)を営むお客さまに向けた多様な製品およびサービスをご紹介しました。

会場では、紙緩衝材のリーディングカンパニーであるランパック社が提供する、オンデマンドで緩衝材を高速生成するカッターコンバータ「FillPak®TTC」(写真:右上)のデモンストレーションを実施。これは、輸送中に箱内の製品が動くのを防ぐために使う緩衝材を紙化することで環境対応が可能となるだけでなく、専用マシンによる給紙によって梱包作業時間の大幅な短縮や業務標準化などが期待できる製品として、多くの来場者の注目を集めていました。

また、トラックの積載量が通常の2倍を実現できる「スリーブボックス(写真:左下)」、海洋プラスチックゴムのリサイクル材を一部使用した「OBP(オーシャンバウンドプラスチック)パレット」、環境に配慮した「水溶性ガムテープ(写真:右下)」など、同業界に向けて環境負荷低減や人材不足などの課題解決に資する商品やソリューションを展示しました。



展示ブースの様子



FillPak®TTC



スリーブボックス



水溶性ガムテープ



RBL CAFE

(アールビーエル カフェ)

東京都世田谷区代沢5-32-12

TEL:03-6805-2046

営業時間:13:00~19:00

営業日:土曜・日曜・祝日

※月曜~金曜は不定休

<https://rblcafe.jp/>



心ゆくまで読書に没入できる、クイズの参考資料を集めたブックカフェ

ライブハウスや劇場が点在し、サブカルチャーの聖地としてさまざまな流行・文化を発信し続ける東京・下北沢。多くの若者で賑わうこの街の路地裏に佇むようにあるのが「RBL CAFE」です。

「ここにある本はすべて、クイズの問題を作成するための参考資料なんです」。そう話すのは仲野隆也さん。仲野さんはクイズ作家を本業としてクイズ専門の制作会社を経営する傍ら、この「RBL CAFE」を運営しています。「僕自身がカフェなどで仕事することが多く、美味しいコーヒーと自分が快適に仕事のできる空間をつくりたいという思いから、このカフェをオープンしました」(仲野さん)。左右両側に設置された本棚

には、「〇〇入門」や「〇〇大全」といった知識の詰まった本を中心に約7,000冊を収蔵。本棚に向けられた座り心地の良いソファ席が用意され、一人ひとりがゆっくりと読書に没頭できる上質な空間が用意されています。「お客様は、単に読書を楽しみたい方と資料の閲覧を目的に来る方が半々ですが、ほとんどの方が大きな音を出さないように気配りしてくれています」と仲野さんは話します。

また、この「RBL CAFE」では、イベントスペースとして貸し出しも。音楽のミニライブや一人芝居、俳優や演出家のトークイベントなど、下北沢らしいイベントも不定期で開催しています。「一般の方が参加できるクイズイベントも開催し

ています。クイズ用の早押し機を用意しているカフェは、世界でうちだけかもしれないね(笑)」(仲野さん)。

クイズ作成用の資料であるがゆえ幅広いジャンルの良本が揃う「RBL CAFE」は、まさに「知の宝庫」。知的好奇心の追求に役立てくれるカフェです。



1オーダーで120分間利用できる時間制。120分を超える場合は、30分あたり200円の席料がかかる。ハンドドリップで淹れるブレンドコーヒーも美味。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行:コーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4166 (代)

<https://www.kpp-gr.com/>

TSUNAGU公式インスタグラム
ID:kpp.tsunagu

ぜひフォローを
お願いいたします!